

平成20年度
研究事業評価に関する意見書

平成20年11月27日
長崎県研究事業評価委員会

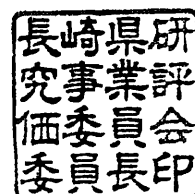
目 次

1. 評価対象について	1
2. 評価結果について	
(1) 評価結果の総括	1
(2) 評価結果の概要	2
(3) 研究テーマ別評価結果	
①戦略プロジェクト研究（1件）	4
②連携プロジェクト研究（3件）	5
③特別研究（5件）	8
④経常研究（68件）	12
(4) 今後の改善についての意見	13
(参 考)	
1. 評価体制について（委員名簿・開催状況）	14
2. 研究機関別テーマ数	15
3. 分科会評価結果について	
(1) 経常研究の総合評価一覧表	15
(2) 分野別分科会報告書	20
・環境保健分野（20～30）	・工業分野（31～51）
・水産分野（52～64）	・農林分野（65～87）

長崎県研究事業評価委員会は、平成18年度より知事から諮問を受け、「長崎県政策評価条例」にもとづく、研究事業評価を行ってきた。
今回、平成20年度の研究事業について調査・審議を行ったので、下記のとおり報告するとともに、次のとおり意見を申し述べる。

平成20年11月27日

長崎県研究事業評価委員会
委員長 納 富 啓



1. 評価対象について

○ 評価種類別テーマ数

	戦略プロジェクト研究	連携プロジェクト研究	特別研究	経常研究	合計
事前評価	1	0	0	23	24
途中評価		2	1	24	27
事後評価		1	4	21	26
合計	1	3	5	68	77

(注) 戦略プロジェクト研究：

県の施策の実現を科学技術の面から支援するため、研究課題の企画の段階から、製造（生産、加工）から流通、販売までを見据え、高い戦略性により成果を産業振興などの出口に着実に繋げていく研究。

連携プロジェクト研究：

重点分野について、複数の県の研究機関が産業界や大学と連携して行う研究

特別研究：

重点分野、または、県の重点施策に関連したものについて、単一の県の研究機関が産業界や大学と連携して行う研究

経常研究：

産業界や生産現場のニーズ等に基づき、各研究機関が独自に計画立案したもので、連携プロジェクト研究及び特別研究を除く研究

2. 評価結果について

(1) 評価結果の総括

平成18年から始まった研究事業評価制度は、今年度新たに知事の任命を受け第2期目の調査・審議を行った。

今年度評価した課題は全部で77課題。このうち戦略、連携、特別の3種の分野融合研究については、A評価が6テーマ、B評価が3テーマであった。また経常研究の総合評価段階は、S評価が18テーマ、A評価が50テーマであった。

分野融合研究は、産業振興に直接結びつけることを目的としたテ

ーマであるため、技術の完成度や経済効果の点で厳しく評価した。

(2) 評価結果の概要

区 分		テーマ 数	総合評価の段階別内訳				
研究種別	時 点		S	A	B	C	
戦略プロ ジェクト 研究	事前評価	1	0	1	0	0	
連携プロ ジェクト 研究	途中評価	2	0	1	1	0	
	事後評価	1	0	1	0	0	
	小 計	3	0	2	1	0	
特別研究	途中評価	1	0	0	1	0	
	事後評価	4	0	3	1	0	
	小 計	5	0	3	2	0	
計		9	0	6	3	0	
研究種別	時 点	分 野	テーマ 数	S	A	B	C
経常研究	事前評価	環境保健	2	0	2	0	0
		工 業	7	2	5	0	0
		水 産	2	0	2	0	0
		農 林	12	5	7	0	0
		小 計	23	7	16	0	0
	途中評価	環境保健	2	1	1	0	0
		工 業	9	3	6	0	0
		水 産	1	0	1	0	0
		農 林	12	2	10	0	0
		小 計	24	6	18	0	0
	事後評価	環境保健	0	0	0	0	0
		工 業	7	0	7	0	0
		水 産	2	0	2	0	0
		農 林	12	5	7	0	0
		小 計	21	5	16	0	0
計			68	18	50	0	0
合 計			77	18	56	3	0

(注) 総合評価の段階

(事前評価)

S＝積極的に推進すべきである

A＝概ね妥当である

B＝計画の再検討が必要である

C＝不相当であり採択すべきでない

(途中評価)

S＝計画以上の成果を上げており、継続すべきである

A＝計画どおり進捗しており、継続することは妥当である

B＝研究費の減額も含め、研究計画等の大幅な見直しが必要である

C＝計画を中止すべきである

(事後評価)

S＝計画以上の成果を上げた

A＝概ね計画を達成した

B＝一部に成果があった

C＝成果が認められなかった

(3) 研究テーマ別評価結果

① 戦略プロジェクト研究 (1件)

研究テーマ名 (研究機関)	県内資源を活用した加工食品の開発 (総合水産試験場・総合農林試験場・工業技術センター)			
評価区分	事前評価			
研究概要	県産魚や県が保有するばれいしょ品種、有用菌を活用して、付加価値のある業務用加工食材を開発する。			
ながさき夢・元気づくりプラン(長崎県長期総合計画 後期5か年計画)での位置づけ	II 競争力のあるたくましい産業の育成 4 長崎ブランド発信プロジェクト ③ 産地ブランド化の推進 5 明日を開く産業育成プロジェクト ③ 産学官連携による共同研究と事業化の推進 6 農林水産業いきいき再生プロジェクト ② 農林業の生産性・収益性の向上 ③ 水産業の生産性・収益性の向上			
評点及び 総合評価	必要性	効率性	有効性	総合評価
	A	B	A	A
意見	必要性	農水産物を活用した業務用加工食材という新たな用途を開発し、農水産業を活性化するという取り組みは必要性があるといえる。		
	効率性	県が保有する冷凍すり身化技術や、独自ばれいしょ品種などを活かして加工食品を開発することは効率的である。3つのサブテーマの間で成果について意見交換をし、情報の共有を図ることで、各研究機関の強みをプロジェクト全体のものとし成果の普及性、事業性を向上させる必要がある。		
	有効性	県内において農水産物の加工まで一貫して行うことで、経済的効果を高める意図は理解できる。県が保有する技術や資源を活用し、生産物に付加価値を与えるためには、目標達成プロセスをより明確にする必要があると思われる。		
	総合評価	地域の特色ある原材料を利用した加工食品をブランド化し、消費者を呼び込むためには、研究成果の事業化プランを明確にし、投資効果を明確にする必要がある。		

② 連携プロジェクト研究（3件）

研究テーマ名 (研究機関)	全自動収穫ロボットシステムの開発 (工業技術センター・総合農林試験場)			
評価区分	途中評価			
研究概要	全国屈指のアスパラガス生産県（平成16年産の出荷量全国3位、10a収量2位）として、さらなる生産規模拡大による園芸振興を図る。このため、収穫ロボットと萌芽位置制御栽培技術等の研究開発を農工連携により行い、アスパラガスの自動収穫システムの実用化を目指す。			
ながさき夢・元気づくりプラン(長崎県長期総合計画 後期5か年計画)での位置づけ	Ⅱ競争力のあるたくましい産業の育成 5明日を拓く産業育成プロジェクト ③産学官連携による共同研究と事業化の推進 6農林水産業いきいき再生プロジェクト ②農林業の生産性・収益性の向上			
評点及び 総合評価	必要性	効率性	有効性	総合評価
	A	A	B	B
意見	必要性	長崎県戦略品目であるアスパラガスの収穫を軽労化する研究として必要性を認める。投資効果など経済性の検討や今後の普及のために行政機関と一体となって、普及シナリオを作成することも必要と思われる。		
	効率性	特許出願など成果目標は達成している。しかし目標の達成には、画像認識において技術的課題が残っており、解決を要する。また作業速度など目標数値以上の成果を期待したい。		
	有効性	ロボットの収穫能力やほ場における刈取り可能な面積の割合といった目標を引き上げるための方策を検討する必要がある。また技術を導入する農家像を明確にする必要がある。		
	総合評価	開発したロボットが農業者に導入意欲を抱かせるものになり得るかが重要である。そのためにはロボットの能力や、ロボット化に適した栽培技術、イニシャル・ランニングコストなど研究目標の見直しが必要と思われる。 他県が取り組んでいない分野であり研究方向の修正により、優れた成果が得られることを期待したい。		

研究テーマ名 (研究機関)	イカ肉の高度有効利用に関する研究 (総合水産試験場・工業技術センター)			
評価区分	途中評価			
研究概要	本県で新たに開発したイカ練り製品を特産品として定着させるために、イカすり身の安定生産技術、イカ肉を利用した調味エキス製造法を確立する。さらにイカ肉の健康機能性の解明を実施し、製品の高付加価値化を試みる。			
ながさき夢・元気づくりプラン(長崎県長期総合計画 後期5か年計画)での位置づけ	Ⅱ 競争力のあるたくましい産業の育成 6 農林水産業いきいき再生プロジェクト ③ 水産業の生産性・収益性の向上			
評点及び 総合評価	必要性	効率性	有効性	総合評価
	S	A	A	A
意見	必要性	廃棄されている傷物のイカを使って新しい加工品を開発する研究であり、経済的効果は大きく、高い必要性を認める。		
	効率性	研究開発体制が明確であり、順次研究室段階から実証規模へ移行する計画になっているなど効率的な研究がなされていると考えられる。未利用部位の有効利用による体調調節作用については短期間で成果を出すためには物質を絞り込むなど工夫が必要と思われる。		
	有効性	当初の目標値どおりの成果が上がっており有効な研究がなされているものと思われる。成果を普及するためには、セールスポイントを明確にする必要がある。特許対策を万全としたうえで、学会誌等に積極的に投稿し公に認められている状況を創出していく必要がある。		
	総合評価	研究計画どおりに進捗している。未利用の漁獲物を加工し製品化した形で付加価値をつけることは地場産業の育成活性化に結びつくものであり、県の実施する研究として効果が高い。 今後、より重点的に取り組むことで研究のスピードアップと計画以上の成果を期待したい。		

研究テーマ名 (研究機関)	本県特産茶葉・ビワ葉の有効成分を活用した高機能性茶葉の開発(総合農林試験場、果樹試験場、工業技術センター)			
評価区分	事後評価			
研究概要	緑茶生葉とビワ葉の有効利用による新たな機能性成分を有する高機能発酵茶を開発し、三番茶を用い健康機能性を高度に有する揉捻混合の製造法を確立した。またビワの葉に含まれる酵素活性について品種ごとに比較し、高機能性茶葉に適した品種を選定するとともに高機能発酵茶ドリンクを試作し、動物実験やヒトの飲用試験で機能性の評価を行った。			
ながさき夢・元気づくりプラン(長崎県長期総合計画 後期5か年計画)での位置づけ	II 競争力のあるたくましい産業の育成 4ながさきブランド発信プロジェクト ③産地ブランド化の推進 5明日を拓く産業育成プロジェクト ③産学官連携による共同研究と事業化の推進 6農林水産業いきいき再生プロジェクト ②農林業の生産性・収益性の向上			
評点及び 総合評価	必要性	効率性	有効性	総合評価
	A	A	B	A
意見	必要性	ビワ葉は健康食品として消費者に一定の認知がある。中性脂肪・血圧・血糖値の抑制効果を明らかにすることで独自性のある特産品を開発でき長崎県の試験研究として意義がある。		
	効率性	それぞれの研究機関が独自の技術を持ち寄り、原料の製造、機能性解明、販路開拓と系統的に取り組んでおり効率的な研究となっている。製造技術開発と同時並行して機能性の検証が行われた点も研究体制として評価できる。		
	有効性	商品化への戦略を明らかではないが、臨床試験、安全性試験、機能性検証が終わっており試験成果のみならず研究手法が今後の機能性食品開発に大いに参考となると思われる。		
	総合評価	計画期間内で期待された成果があり、成果の移転や実用化の見通しも立っている。明確な目的を設定し十分に達成している点が評価できる。		

③ 特別研究（5件）

研究テーマ名 (研究機関)	温泉・浴場施設における日常的なレジオネラリスクの オンサイト評価方法の確立に関する研究 (環境保健研究センター)			
評価区分	途中評価			
研究概要	温泉や公衆浴場を取り巻くレジオネラ症関連問題を解決するために、現場サイドから見たレジオネラリスクの評価技法を確立し、営業者（管理者）はもちろん利用者にもわかりやすく管理の必要性を認識できる衛生監視システムを構築する。			
ながさき夢・元気づくりプラン(長崎県長期総合計画 後期5か年計画)での位置づけ	Ⅲ安心で快適な暮らしの実現 7安全・安心の向上プロジェクト ②危機管理体制の充実強化			
評点及び 総合評価	必要性	効率性	有効性	総合評価
	A	A	B	B
意見	必要性	観光業と密接に関わる温泉・旅館業等浴場施設の適切な衛生管理法を確立することは社会的・経済的な観点から必要である。		
	効率性	研究開発中に遺伝子検査の補助が必要ないことを見だし、分析期間の短縮手法を開発したことは高く評価できる。今後分析結果の確からしさを明らかにすることで、新評価法の信頼性が高くなることを期待したい。		
	有効性	開発された技術がどのように現場で採用され、実施されていくのかについての見通し、また公定法との位置づけを明らかにする必要がある。 オンサイト評価を実現するためには、残る課題を解決する必要がある。		
	総合評価	研究の方向性が、評価法の確立、指導技術の確立または機器の開発、と明解でない。いまいちど研究を見直して成果に至るよう求めたい。 独自技術によるレジオネラリスクの迅速評価法を開発しており、研究者の精力的な努力は評価できるが、オンサイト化と技術の普及が評価法としては課題が残る。		

研究テーマ名 (研究機関)	イカ類の高品質保持輸送技術の開発 (総合水産試験場)			
評価区分	事後評価			
研究概要	長崎県産のイカ類の価格上昇とブランド化を図るため、イカ類の致死条件、保存条件の把握および簡易な鮮度判別法の確立と活魚輸送の基礎的な条件を把握し高品質保持輸送技術の開発を行った。			
ながさき夢・元気づくりプラン(長崎県長期総合計画 後期5か年計画)での位置づけ	Ⅱ 競争力のあるたくましい産業の育成 6 農林水産業いきいき再生プロジェクト ③ 水産業の生産性・収益性の向上			
評点及び 総合評価	必要性	効率性	有効性	総合評価
	A	A	B	A
意見	必要性	イカ類特に本県特産のアオリイカの鮮度保持および活魚輸送技術確立への社会的・経済的ニーズは高く県の研究機関で取り組む意義は高い。 アオリイカを周年供給できる長崎県の強みを活かす技術開発であったと評価でき、離島の水産振興にもつながる。		
	効率性	設定された目標はほぼ順調に達成できたが、活魚輸送技術の開発まで至らなかった点は課題として残る。また、開発された技術のアオリイカ以外への応用可能性を検討してはどうか		
	有効性	画像解析による透明感の計測という新たな鮮度計測手法を確立しており有効な研究がなされているが、実用化にはさらにいくつかの技術開発が必要である。		
	総合評価	アオリイカの鮮度保持条件の解明や、その計測手法を開発した点で高く評価できる。今後異分野の研究機関や企業からの情報収集により、長崎独自の技術を早急に開発するとともに、ブランド構築に向け消費者認知に向けた戦略を展開する必要がある。		

研究テーマ名 (研究機関)	五島つばきの新用途及び育成管理技術の開発 (総合農林試験場・工業技術センター)			
評価区分	事後評価			
研究概要	本県のつばき油生産量は全国2位であり、五島の特産物となっている。未利用つばき林資源の活用により生産量増大の可能性が有るため、つばき各部位の成分分析、機能性調査及び加工法の検討等に基づく新用途の開発を行うとともに、つばき資材の供給量の増大と効率化のためつばき林の育成管理技術を確立した。			
ながさき夢・元気づくりプラン(長崎県長期総合計画 後期5か年計画)での位置づけ	Ⅱ 競争力のあるたくましい産業の育成 6農林水産いきいき再生プロジェクト ②農林業の生産性・収益性の向上			
評点及び 総合評価	必要性	効率性	有効性	総合評価
	A	A	B	A
意見	必要性	地域の特徴、特性、特産を活かすことで離島や地域を活性化する取り組みは重要である。地域のニーズを踏まえた必要性の高い技術開発であったと言える。伊豆大島など他の産地と比較して、五島の課題と優位性を十分認識したうえで研究を行う必要がある。		
	効率性	県研究機関、大学、公社、観光協会との連携により、育成管理技術、機能性解明、用途開発、新抽出技術開発を並行して効率的に進めている。しかし新用途として商品開発までは至っていない。		
	有効性	つばき油以外の製品化が未達成であり、技術の特許申請と地元への移転段階には至っていない。しかし成分分析結果から優れた製品素材であることが示され、非加熱搾油等の新たな製造法の開発が進んだ。		
	総合評価	機能性の解明から商品開発、原料の収量向上まで一貫した研究が行われている点を評価する。今回の成果がどの程度の経済効果に結びつくのか、未達の課題が達成された場合どうなるのかを、後継研究実施にあたっては明確にする必要がある。		

研究テーマ名 (研究機関)	健康・安心な豚肉生産技術の確立 (畜産試験場)			
評価区分	事後評価			
研究概要	プロバイオティクス等の抗生物質に代わる発育促進用添加物の効果を異なる肥育豚飼育密度の状況下で試験し、また野外で飼育するため肺炎等呼吸器病の被害を受けにくい放牧養豚技術も併せて検討し、薬(抗生物質)に頼らない養豚飼育管理方式の実用化を目的とした研究を行った。			
ながさき夢・元気づくりプラン(長崎県長期総合計画 後期5か年計画)での位置づけ	Ⅱ 競争力のあるたくましい産業の育成 6 農林水産業いきいき再生プロジェクト ② 農林業の生産性・収益性の向上			
評点及び 総合評価	必要性	効率性	有効性	総合評価
	A	A	A	A
意見	必要性	健康で安心な豚肉の生産・供給技術に対する消費者ニーズは高いといえる。しかし放牧肥育の目的あるいは効果については明確に示されておらず、ビジョンを明確にする必要があったと思われる。		
	効率性	設定された目標は数値的にほぼ順調に達せられており、手法や実施体制も適切であったが、放牧と農場残さの組み合わせの検討することとした理由が不明確であった。		
	有効性	安心・安全な食の供給は重要であるが、技術開発だけでなく成果を周知する広報活動も重要と思われる。県民のQOL 向上に向けた取り組みを評価する。		
	総合評価	抗生物質に頼らない、飼養管理技術は食の安全・安心の確保という点から重要な研究成果であり、技術開発の着眼点としても時代の要請に応えるものであったと思われるが、県民に成果、生産物を理解してもらう仕組み作りも必要である。現場へ普及するためにはそういった点を改善する必要がある。		

研究テーマ名 (研究機関)	超音波画像を用いた精度の高い肉質判定手法の確立 (畜産試験場)			
評価区分	事後評価			
研究概要	生体時に肥育牛の肉質を判定する際、超音波画像を人の目で見て判定しているが、判定者の経験によるところが大きく、超音波画像を用いた肉質判定は現場段階では普及していない。そこで肉質とより相関の高い超音波画像の処理方法について検討を行い、精度の高い肉質判定手法を確立した。			
ながさき夢・元気づくりプラン(長崎県長期総合計画 後期5か年計画)での位置づけ	Ⅱ 競争力のあるたくましい産業の育成 6 農林水産業いきいき再生プロジェクト ② 農林業の生産性・収益性の向上			
評点及び 総合評価	必要性	効率性	有効性	総合評価
	A	B	B	B
意見	必要性	客観的に肉質を判定できる技術の確立は消費者の信頼のために社会的ニーズがあると考えられる。しかし、他の研究と比較した有利性が明確となっていないため、取り組み成果の具体像がわかりにくくなっているように思われる。		
	効率性	画像解析手法を用いることで、生体での肉質判定精度を向上させており一定の成果はあったが、取り組み期間や費用を考えると達成した結果に不満が残る。 機械の改良やより高度な画像統計処理手法に取り組むべきであった。		
	有効性	開発した技術を超音波機器メーカーへ販売できるのか、現場に普及する際にどのような利用形態になるのか、実用化の面から具体的なビジョンが描けていない点に問題があった。		
	総合評価	生体での肉質判定に一定の研究成果があったことは、肥育農家の飼養管理改善や適期出荷判定に寄与すると思われるが、成果の普及性や実用化の手法が明確でなく、現場での利用に十分な精度であったのかについても明らかではなかった。そのため成果については十分でなかった。		

- ④ 経常研究(68件)
各専門分野分科会において評価を行った。

(4) 今後の改善についての意見

①戦略プロジェクト研究の改善について

戦略プロジェクト研究は、県施策の実現を科学技術の面から支援するため、戦略的な研究企画を強化すべきとした平成19年度当委員会の提言をうけたものである。

研究のさらなる充実のため以下の点に留意して運営されたい。

- ア 複数の研究分野に応じて達成目標を設定するとともに、プロジェクトリーダーが進捗管理を確実に実行できる体制を構築すべきである。
- イ 開発される技術により行政施策を実現するためには、県の関係部局などとの連携が必要であり、課題に応じ緊密な協力体制を研究企画段階から構築しておく必要がある。

②研究評価の適切な反映

研究事業評価委員会、研究機関の長、研究機関主管課の3者の連携、役割分担により、評価を適切に研究に反映させる必要がある。

③基盤的研究の評価

県の機関が行う研究は、県の産業や県民生活向上を目的としており、その中には、短期的に成果を上げるべき研究と、中・長期的な視点でデータや遺伝資源などを蓄積していく基盤的研究とも言うべき研究の2種類が存在している。それぞれの位置づけを明確にしたうえで適切に評価すべきである。

(参考)

1 評価体制について（委員名簿・開催状況）

本委員会は、知事の諮問を受け、委員会を2回、分野別の研究評価分科会を延べ8回開催し、分科会の調査・審議に関する結果報告も踏まえ、評価した。

○ 長崎県研究事業評価委員会 委員名簿

氏名	役職	備考
納富 啓	三菱重工業株式会社 技術本部長崎研究所 技監・技師長	委員長
吉村 進	長崎総合科学大学 人間環境学部 特任教授	副委員長
奥 真美	首都大学東京 都市教養学部 教授	
小路 武彦	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 教授	
小島 孝之	放送大学佐賀センター 所長	
坂井 秀之	協和機電工業株式会社 代表取締役社長	
立山 博	独立行政法人産業技術総合研究所 九州センター 所長	
中田 英昭	長崎大学大学院 生産科学研究科長	
西園 祥子	宮崎大学 産学連携支援センター 准教授	
山口夕妃子	長崎県立大学 経済学部 准教授	

○ 長崎県研究事業評価委員会 開催状況

研究事業評価委員会 7月7日、10月17日（計2回）

分野別研究評価分科会 7月29日～9月3日（4分野 計8回）

合計 10回

〔分科会別の開催内訳〕

- ・ 環境保健分野研究評価分科会 （2回）
開催日：平成20年7月29日、8月22日
- ・ 工業分野研究評価分科会 （2回）
開催日：平成20年7月31日、9月3日
- ・ 水産分野研究評価分科会 （2回）
開催日：平成20年7月29日、8月29日
- ・ 農林分野研究評価分科会 （2回）
開催日：平成20年8月7日、8月26日

2. 研究機関別テーマ数

	連携プロジェクト研究	特別研究	経常研究	合計
環境保健研究センター	0	1	4	5
工業技術センター	3	1	14	18
窯業技術センター	0	0	9	9
総合水産試験場	1	1	5	7
総合農林試験場	2	1	23	26
果樹試験場	1	0	6	7
畜産試験場	0	2	7	9
合計	7	6	68	81

※ 連携プロジェクト、特別研究は重複計上あり。

3. 分科会評価結果について

(1) 経常研究の総合評価一覧表

番号	評価区分	テーマ名	研究機関名	総合評価
1	事前	無菌性髄膜炎の集団発生を惹き起こすエコーウイルスのウイルス分子性状に関する研究	環境保健研究センター	A
2	事前	諫早湾干拓調整池に係る水質浄化研究	環境保健研究センター	A
3	事前	機械加工技術の効率化・高精度化のための研究	工業技術センター	A
4	事前	環境変動に対応した移動システムの開発	工業技術センター	A
5	事前	海水魚の閉鎖循環型大規模陸上飼育システムの構築	工業技術センター	S
6	事前	シミュレーション技術を活用した分子構造基盤薬物設計の研究	工業技術センター	A
7	事前	非接触式水分ストレス計の開発	工業技術センター	A
8	事前	低温反応プロセスを用いた無機系廃棄物からの機能性材料の開発	窯業技術センター	S

9	事前	新規な耐熱素材の開発	窯業技術センター	A
10	事前	水産加工原料確保のための新原料開発	総合水産試験場	A
11	事前	漁海況情報提供強化事業	総合水産試験場	A
12	事前	イチゴ新品種「高良6号」の生産安定技術確立	総合農林試験場	S
13	事前	アスパラガス有望品種の栽培技術確立	総合農林試験場	A
14	事前	輪ギク新品種の育成および栽培技術確立	総合農林試験場	S
15	事前	カーネーションの新品種育成	総合農林試験場	S
16	事前	DNAマーカー選抜と染色体操作による野生種由来ジャガイモ青枯病等複合抵抗性育種素材の育成	総合農林試験場	S
17	事前	人工林資源の循環利用を可能にする技術の開発 －育林初期のコスト低減と下層木誘導－	総合農林試験場	A
18	事前	気候温暖化に対応したカンキツ栽培技術の開発	果樹試験場	A
19	事前	長崎オリジナルカンキツの育成	果樹試験場	A
20	事前	温州ミカンにおける天敵利用技術の開発	果樹試験場	A
21	事前	乳牛へのバレイショ給与技術の確立	畜産試験場	S
22	事前	乳用後継メス牛の効率的生産技術の確立	畜産試験場	A
23	事前	寒地型永年牧草を利用した省力的な栽培技術の確立	畜産試験場	A
24	途中	底生水産生物を利用したメンテナンスフリー型内湾環境修復技術の開発	環境保健研究センター	S
25	途中	野生動物の病原体保有状況に関する研究	環境保健研究センター	A
26	途中	主軸の回転同期による高能率微細加工技術の開発	工業技術センター	S

27	途中	青果物「酸度」の高精度非破壊計測技術の開発	工業技術センター	S
28	途中	難削性ステンレス鋼の加工面を平滑にする切削加工技術の開発	工業技術センター	A
29	途中	ハイブリッド DLC 膜合成およびエッチング技術開発と応用化研究	工業技術センター	S
30	途中	穀物粉粒体の品質管理のための迅速多成分分析装置の開発	工業技術センター	A
31	途中	無機材料の遠赤外線放射特性と応用製品に関する研究	窯業技術センター	A
32	途中	高活性複合型光触媒の開発	窯業技術センター	A
33	途中	新規なリン吸着材を活用した排水高度処理システムの構築	窯業技術センター	A
34	途中	天草陶石を活用した環境対応型次世代陶磁器の開発ー低温焼成磁器の量産製造技術開発ー	窯業技術センター	A
35	途中	磯根生産性向上技術開発事業	総合水産試験場	A
36	途中	集落営農組織の農地流動化支援技術の開発	総合農林試験場	A
37	途中	地域ブランドに向けた野菜の生産技術確立	総合農林試験場	A
38	途中	放射線と組織培養による突然変異を利用したキク・鉢物の優良系統育成	総合農林試験場	A
39	途中	森林・緑化樹の侵入害虫による被害実態の解明と防除法の確立	総合農林試験場	A
40	途中	未利用資源の炭化処理による合理的農業利用技術の確立	総合農林試験場	A
41	途中	アスパラガス重要病害虫の効率的防除技術の確立	総合農林試験場	A
42	途中	地域在来農産物の機能性評価及び加工技術の開発	総合農林試験場	A
43	途中	長崎県特産農産物の流通技術開発	総合農林試験場	A
44	途中	茶樹優良品種の選定並びに母樹園の設置	総合農林試験場	A

45	途中	ビワ新品種による超多収・良食味果実生産技術の確立	果樹試験場	A
46	途中	新開発移植器を用いた牛胚移植の受胎率向上技術の確立	畜産試験場	S
47	途中	家畜排泄物の窒素負荷低減技術の確立	畜産試験場	S
48	事後	薬理活性物質の効率的探索に関するシミュレーション技術の研究	工業技術センター	A
49	事後	内包成分の放出制御機能を有する環境調和型カプセルの開発	工業技術センター	A
50	事後	真珠タンパク質の遺伝子発現及び機能解析に関する研究	工業技術センター	A
51	事後	バイオインフォマティクス技術による機能性成分高含有清酒の開発	工業技術センター	A
52	事後	ユニバーサルデザイン（UD）の開発プロセスとその評価方法の研究	窯業技術センター	A
53	事後	電子レンジ対応食器の開発	窯業技術センター	A
54	事後	食器洗浄乾燥機に対応した釉による加飾技術の開発	窯業技術センター	A
55	事後	有明海特産種二枚貝類種苗生産技術開発事業研究	総合水産試験場	A
56	事後	高水温対応型海藻増養殖技術開発研究	総合水産試験場	A
57	事後	長崎県におけるエコ農業定着条件の解明	総合農林試験場	A
58	事後	水稻新奨励品種「にこまる（西海250号）」の栽培技術確立	総合農林試験場	S
59	事後	実需者ニーズに即した小麦の栽培技術確立	総合農林試験場	S
60	事後	無側枝性秋ギク「晃花の富士」の栽培技術確立	総合農林試験場	A
61	事後	海岸クロマツ林の密度管理及び類型別保育管理手法の開発	総合農林試験場	A
62	事後	森林の有する土砂流出防止機能向上のための施業方法の確立	総合農林試験場	S
63	事後	イチゴ高設栽培における病害虫の効率的・総合管理技術の開発	総合農林試験場	A

64	事後	バレイショ「アイユタカ」等の生産安定技術の確立	総合農林試験場	S
65	事後	長崎ブランド「出島の華」の安定生産技術の確立	果樹試験場	S
66	事後	新整枝法による落葉果樹管理作業の軽労化と多収技術の開発	果樹試験場	A
67	事後	肉用牛における早期肥育技術の確立	畜産試験場	A
68	事後	新銘柄鶏「ながさきうまかどり(仮称)」の開発	畜産試験場	A